

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：シビア現象の監視及び危険度診断技術の高度化に関する研究

評価分科会（予報分野）

分科会長：田中正之

委員：岩崎俊樹、木村富士男、佐藤 薫、藤吉康志

評価年月日：平成24年1月13日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 ☒ 継続 ☐ 中止
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

近年社会的要請の高まっている突風、大雨、落雷等のシビア現象に対する防災気象情報の高度化や交通手段の安全運行等に資することを目的として、現象の監視・予測技術を開発する事を目指した研究であり、早急な進展が望まれる課題である。

新しい観測システムを開発することによって、これまで不可能だった、竜巻や突風の監視なども可能になりつつあるなど、研究は概ね順調に進捗しており、最終年度までには所期の目的を達成することが期待される。ただし、具体的な研究の出口が見えにくいので、計画と成果の説明力を向上させる努力が求められる。

観測は大気現象を知る研究の基本である。数値モデルグループとの連携を強化し、現象の総合的な解析や、データ同化手法の開発を目指していただきたい。さらに、数値モデルグループとの協同を含めた全体の枠組みの中での本研究の位置づけを明確にできるとより良い。今後とも、気象情報サービスの向上に向けて、観測システムとその利用法の開発を続けていただきたい。また、素晴らしい研究成果が出ていると思われるので、論文などによる成果の公表にも努めていただきたい。副課題2と副課題3は、副課題1に比べて研究の焦点がはっきりしていない面があるが、新技術（＝装置開発）の創成が成果として望まれるので、それを踏まえた形で成果を出していただきたい。